

# 令和6年度 山口県 英語教育改善プラン

## 目標

英語で自分の考えや気持ちを豊かに表現できる子どもの育成に向けて、小中高の連携を意識した言語活動の充実を視点とした授業改善を行う。

○パフォーマンステストの実施回数 (R5 : 8.7回 ⇒ R6 : 9.0回)

○「英語の学習が好きだ」の質問に対して肯定的に回答する児童の割合 (R5 : 67.8% ⇒ R6 : 75%)

### 1. 目標に対する現状

#### 改善が進んだ点

- ①パフォーマンステストの平均実施回数が増加した。  
(R4:8.6回⇒R5:8.7回)
- ②児童の英語による言語活動の状況が99.4%となった。  
(R4:97.6%⇒R5:99.4%)
- ③小中連携の実施状況について「交流」の項目に改善が見られた。  
(R4:71.2%⇒R5:78.4%)

#### 未だ改善が必要な点

- ①小中連携の実施状況について「カリキュラム設定」の項目に課題が見られた。  
(R4:56.1%⇒R5:54.7%)
- ②パフォーマンステストの平均実施回数について改善の余地がある。  
(R3:9.2回⇒R5:8.7回)
- ③「英語の学習が好きか」という問いにおける肯定的回答の割合について課題が見られた。  
(R4: 68.3%⇒R5:53.8%)

### 2. 要因分析

- ①②各種研修会を実施したことで、パフォーマンステスト等を位置付けた単元構想に基づく言語活動中心の授業実践が促進され、数値が増加したと考えられる。
- ③コミュニティ・スクールの連携・協働体制を活かした中学校区での取組が活性化したことで、小中の交流が増加したと考えられる。

- ①小中が連携したカリキュラム設定を行うよさを周知する取組が十分ではなかったことが要因と考えられる。
- ②③パフォーマンステストの平均実施回数や、「英語の学習が好きか」という問いにおける肯定的回答率に地域間の差が見られ、指導と評価を一体化させる指導に改善の余地があると思われる。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②③ 各種研修会の実施  
教員の授業力向上のため、参集、オンライン、ハイブリットのいずれかの形で、以下に示す研修会などを実施する。  
 <スキルアップ研修会>
  - ・発信力を強化する、パフォーマンステストを位置付けた単元構想及び言語活動の充実について
  - ・文字の適切な扱い方や指導方法について など
 <やまぐち英語教育推進連絡会（やまぐち英推連）>
  - ・小中連携教育の充実に向けた情報共有
 <センター研修講座>
  - ・小中の学びの連続性に焦点を当てた講義演習
- ③① 指定校研究の推進  
小・中・高等学校の一貫した英語教育の重要性を理解し、校種間のつながりを意識した英語教育の充実を図る。
  - ・小中高合同研修会の実施
  - ・公開授業研究会の実施
  - ・成果物の公表 など
 <一定の英語力を有する者の新規採用に係る取組>
  - ・山口県公立学校教員採用候補者選考試験において、小学校受験者を対象とした英語資格等による加点
  - ・大学生や新規学卒採用予定者を対象とした「山口県の教師塾」

# 令和6年度 山口県 英語教育改善プラン

## 目標

英語で自分の考えや気持ちを豊かに表現できる子どもの育成に向けて、小中高の連携を意識した言語活動の充実を視点とした授業改善を行う。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 51.5% ⇒ R6 : 54%)

○「英語の学習が好きだ」の質問に対して肯定的に回答する生徒の割合 (R5 : 53.8% ⇒ R6 : 60%)

### 1. 目標に対する現状

#### 改善が進んだ点

- ①パフォーマンステストの平均実施回数が増加した。  
(R4: スピーキング5.2回 ⇒ R5: スピーキング5.7回)  
(R4: ライティング3.3回 ⇒ R5: ライティング4.5回)
- ②生徒の英語による言語活動の状況が100%となった。  
(R4: 98.3% ⇒ R5: 100%)
- ③小中連携の実施状況について「交流」の項目に改善が見られた。  
(R4: 71.2% ⇒ R5: 78.4%)

#### 未だ改善が必要な点

- ①小中連携の実施状況について「カリキュラム設定」の項目に課題が見られた。  
(R4: 56.1% ⇒ R5: 54.7%)
- ②求められる英語力を有する生徒の割合について、改善の余地がある。  
(R4: 50.7% ⇒ R5: 51.5%)
- ③「英語の学習が好きか」という問いにおける肯定的回答の割合について課題が見られた。  
(R4: 55.2% ⇒ R5: 53.8%)

### 2. 要因分析

- ①②各種研修会を実施したことで、パフォーマンステスト等を位置付けた単元構想に基づく言語活動中心の授業実践が促進され、数値が増加したと考えられる。
- ③コミュニティ・スクールの連携・協働体制を活かした中学校区での取組が活性化したことで、小中の交流が増加したと考えられる。

- ①小中が連携したカリキュラム設定を行うよさを周知する取組が十分ではなかったことが要因と考えられる。
- ②③求められる英語力を有する生徒の割合や、「英語の学習が好きか」という問いにおける肯定的回答率に地域間の差が見られ、指導と評価を一体化させる指導に改善の余地があると思われる。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②③ 各種研修会の実施  
教員の授業力向上のため、参集、オンライン、ハイブリットのいずれかの形で、以下に示す研修会などを実施する。  
 <スキルアップ研修会>  
 ・発信力を強化する、パフォーマンステストを位置付けた単元構想及び言語活動の充実について  
 ・各種調査問題の誤答分析について など  
 <センター研修講座>  
 ・小中の学びの連続性に焦点を当てた講義演習
- ③① 指定校研究の推進  
小・中・高等学校の一貫した英語教育の重要性を理解し、校種間のつながりを意識した英語教育の充実を図る。  
 ・小中高合同研修会の実施  
 ・公開授業研究会の実施  
 ・成果物の公表 など  
 <アセスメント>  
 ・外部試験の実施  
 ・県独自学力調査 (C B T) の実施及び結果分析

# 令和6年度 山口県 英語教育改善プラン

## 目標

英語で自分の考えや気持ちを豊かに表現できる生徒の育成に向けて、小中高の連携を意識した言語活動の充実を視点とした授業改善を行う。

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合  
(R5 : A2以上 46.6%、B1以上 17.9% ⇒R6 : A2以上 50%、B1以上 20%)
- 授業における、生徒の英語による言語活動の割合 (R5 : 37.9% ⇒R6 : 50%)

## 1. 目標に対する現状

### 改善が進んだ点

- ①「CAN-DOリスト形式による学習到達目標」公表が増加した。  
(R4:64.0%⇒R5:68.2%)
- ②CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合が増加した。  
(R4:73.9%⇒R5:82.4%)
- ③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合が増加した。  
(R4:42.6%⇒R5:44.3%)

### 未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が減少した。  
(A2 R4:48.7%⇒R5:46.6%)  
(B1 R4:20.6%⇒R5:17.9%)
- ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合が減少した。  
(R4:47.3%⇒R5: 37.9%)
- ③英語担当教員の英語使用状況に改善の余地がある。  
(R4:40.1%⇒R5: 25.9%)

## 2. 要因分析

- ①指導と評価の一体化の重要性について、各種研修会等を通じて、管理職や教員への周知を行ったことで改善したと考えられる。
- ②ALTの授業内外での活用促進等により、ALTとのコミュニケーションの機会が増え、教員の英語力向上に向けた意識が醸成されたと考えられる。
- ③観点別学習状況の評価におけるパフォーマンステストの評価方法及びその活用方法が浸透しつつあると考えられる。

- ①CAN-DOリストと結び付いた年間指導計画に基づく指導や、言語活動を通じた指導が進んでいないことが要因と考えられる。
- ②言語活動を通じた指導の効果についての理解が不足しているためであると考えられる。
- ③「授業は英語で行うことを基本とする」という点に対する意識が十分でないことが考えられる。

## 3. 目標を達成するための施策・事業

### 〈学校訪問〉

- ①指導と評価の一体化を一層促進するため、学校訪問において、訪問校のCAN-DOリスト、年間指導計画及び年間評価計画を踏まえた指導助言を実施

### 〈研修会の実施〉

- ②①②③教員の意識の醸成、言語活動を通じた指導の充実等に向け、研修講座を実施
  - ・「読むこと」を「話すこと」に結び付けた言語活動を取り入れた外国語科授業づくり研修講座
  - ・ALT指導力等向上研修会

### 〈小中高連携英語教育推進校による取組の実施〉

- ③パフォーマンステストの運用方法等について推進校等による実践事例を共有
    - ①小中高のつながりある指導を通して生徒の英語力を育成するため、小中高のつながりを意識したCAN-DOリストの活用を一層促進
- 〈グローバルに活躍することが期待される層の拡充のための取組の実施〉
- ①英語による発信力の向上をめざして、やまぐち発！グローバル・リーダー育成事業を実施
    - ・スタンフォード大学と連携したオンライン講座の実施
    - ・短期留学プログラムの実施（1人6万円の補助）

山口県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	46.6	50		53		57		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	30	17.9	20		23		27		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	75	37.9	50		60		70		75		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	44.3	50		70		85		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	68.2	70		80		90		100	
		達成状況の把握(%)	100	56.1	70		80		90		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80	82.4	83		84		85		85		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	25.9	40		60		80		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	60	51.5	54		56		58		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	100	100		100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	100	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	99.3	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	47	50		53		53		55		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	99.5	100		100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	100	99.6	100		100		100		100
		達成状況の把握(%)	100	99.6	100		100		100		100